

な	ま	っ	茶	キ	ヤ	ラ	メ	ル
宇	治	新	名	物	に			

# 菟道第二小児童が考案

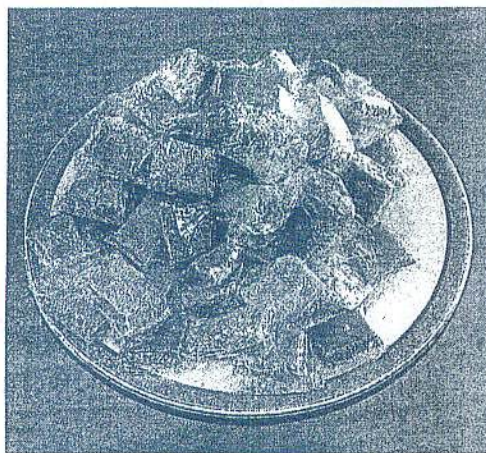
京都文教大生と協力、14日販売

宇治市の菟道第二小の六年生が、宇治ならではの新しい土産「なまっ茶キャラメル」を考案した。地元特産の宇治茶をブレンドした手作りの生キャラメルで、ホワイトデーの十四日、京都文教大の学生と同市宇治の宇治橋通商店街で販売する。四日には児童と学生が販売方法を検討し、収益はユニセフに寄付することを決めた。

六年一組の三十二人は、総合的な学習で「宇治の新しいお土産作り」に取り組んできた。昨年八月には宇治橋通商店街と平等院表参道にある店舗を取材。店員から商品の特徴や購買などを聞き、アイデアを出し合った。



なまっ茶キャラメルの試作品(下)と、試作品を味わう児童と学生  
 宇治市宇治・菟道第二小



なまっ茶キャラメルはその際に出されたアイデアの一つ。抹茶や生クリーム、牛乳、はちみつなどで作る一口サイズで、甘さの中に抹茶の香りが広がる。児童たちには販売経験がないため、京都文教大が小大連携教育の一環として協力。児童と学生は二月から交流などを話し合ってきた。

四日には学生七人が同小を訪ねた。児童や学生は、保護者が作った試作品のキャラメルを味見した後、六個入り一袋を二百円とすることを話し合ってきた。また、原材料費を差し引いた売上の収益三千円は、ユニセフに寄付することにした。今後、ポスターやチラシを作るほか十崎知佳さん(11)は「適度な堅さにするのが難しかった。幼い子どもからお年寄りまで、みんなに味わってほしい」と話している。

(大西保彦)